

インターバンクの声（2014年7月2日）

オーストラリア準備銀行の7月理事会を終えた豪ドルは、今回も豪ドル高への強い文言による懸念表明がなかったことで、ついに4月につけた高値0.9460ドルを越えてきた。

市場に買い志向が増えているユーロも6月の米ISM製造業景況指数や5月の建設支出が市場予想を下回ったことを材料に1.37ドルまで上昇したが、こちらは明日に欧州中央銀行の理事会が控えていることもあり、その後はポジション調整主体の動きとなった。

今週に入ってから、動きの大きい豪ドルやユーロの陰に隠れて動意が乏しくなっているドル円は、月曜日に101円を割り込むような円買いはどうか喰い止めた格好にはなったが、再び100円方向に向けてのドル売りになるかは明日の米雇用統計の結果次第になりそうだ。主要通貨がそれぞれ節目となっていたレベルまで動いて来たのを見ると、相場がそろそろ大きく動き出すような気もする。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。